

に い が た ろうしきょう NEWS

■明るく元気に、紙面リニューアル号 巻頭新シリーズ・元気な笑顔が素敵!! すまいる介護ウーマン

- 研修だよりフォトアルバム 2-3P
- すぐ役立つ!! 防災関連の便利備蓄品特集 4P
- 施設長リレーコラム 5P
- 役員ご挨拶 6P



座右の銘は
「笑う門には福来る」
「継続は力なり」

1

出勤は8時半。事務所のパソコンで日誌を見て利用者の状態を把握。9時から現場で利用者と一緒に畑やペランダの野菜に水やり、収穫を行う。写真の皆さんは86～97才だがとても元気!!



2

屋前にはみんなでオリジナルの「北国の春」「ズンドコ節」体操。廊下の壁にちょっとしたクイズを貼りだしたり、日常生活に楽しく刺激を与える。

実践する「理学療法士・介護士・笑顔を引き出す工夫」。

すまいるウーマン渋谷早央里さん

○所属 特別養護老人ホームとっさか
○経歴 新潟市出身 26歳 三姉妹の末っ子
新潟医療福祉大学理学療法学科卒業後、福島県会津若松市の病院に3年勤務の後、昨年現施設に就職。
○趣味 漫画鑑賞、買い物、バドミントン



3

屋前に事務所で活動記録、今月のカンファレンス対象者の個別機能訓練実施計画書など作成。午後からは個別のリハビリや車椅子の空気入れなど、快適に過ごしてもらうために様々な作業やミーティングを。



特別養護老人ホーム とっさか

○運営 社会福祉法人 二王子会
○介護老人福祉施設サービス 定員100人
短期入所生活介護サービス 定員20人
○新潟県胎内市西本町 11-27
TEL 0254-44-8588

介護士から情報を聞くこと

■就職の理由 前職の病院に比べ、生活感があって長く利用者様と関われる点が私には合うかなど。

■仕事のポイント たくさんの笑顔を引き出し、楽しんでもらうことで活気を持ち、意欲的に日々をすごしてもらえよう関わっています。夏場は利用者様と一緒に野菜に水やり、収穫を行い、成長を見る楽しみや外の空気のすがすがしさを一緒に感じてもらう。レクリエーションは「今日は何するんだね」と楽しみにされているようで、やりがいがありますね。

■先輩に学んだこと 他職員や利用者様との関わり方

です。近頃「介護士に情報を

たくさん聞く」といって学びました。最近困っていることなどを聞き、そこからリハビリ内容やよい介護法を考えるようにしています。

■10年後の私 ずっとベッドで寝ていたり、手持ちぶ

さたな利用者様がなくなるよう楽しめる場をたくさん用意したい。足湯、貼り絵、マッサージ、日光浴、料理などのレクリエーションを望む時に行えるよう

に。個別リハビリは身体機能の維持を図れますが、笑顔は引き出せません。楽しむことで、もっと生活に張り合いと笑顔になる時間を提供したいですね。

セミナー写真アルバム

今年開催された新潟県老施協のセミナーの様子を写真で振り返ります。

6月5日～7月31日(全12日) 認知症介護実践リーダー研修



特別養護老人ホーム
虹の里 介護職員
湯川ひとみ



↑ グループワークの発表風景です。
→ 講義の合間に情報交換。

この『認知症介護実践リーダー研修』に参加させて頂き、自分に不足している部分を多く自覚させて頂きました。具体的には・目標の明確化と共有化・情報の共有化・業務・援助の効果はどう予測するか・結論から述べる・整理した発言をする・問題の抽出をする等を意識しながら、業務にあたりたいと思います。職員に対しても、スーパービジョンの4つのポイントを踏まえてコーチング出来るように、勉強し活用したいと思います。

再度、自分自身のアセスメント能力を向上させて、職員に対しても、ご利用者に対してもより良い環境を模索して行きたいと考えています。

それから、職員の体調管理とストレスについても気を付けていきたいと思っています。



↑ 今日は弁舌さわやかです。
← 最終日に研修の総括をグループごとに発表。発表が短いと「野菜ジュースを飲んでもう少し頑張りましょう」

5月15日～7月29日(全11日) 主任介護支援専門員研修



居宅介護支援事業所
ケアプランわらび園
介護支援専門員
橋 聡一郎

先日、主任介護支援専門員研修の修了証を頂き、5/15から始まった研修を思い返しています。日々の業務に加え、3ヶ月間の研修はかなりのハードなものであり、大変でしたが研修を無事に終了できたことは一緒に学んだ仲間が存在があったからこそと感じています

今後、社会情勢の変化の中で支援の対応に困難を伴うような場面が多々あるものと思います。主任介護支援専門員としてスタート地点に立つたばかりですが、地域の介護支援専門員が意欲的かつ、安心して仕事に取り組むことができるよう適切な臨床像への理解、そして、情緒的な支援を含めた援助により、良好な援助関係を築いて行けるよう取り組み、事業所内や地域の介護支援専門員からの寄りどころとなれるよう経験を積み重ねて行きたいと思っています。講師ならびに事務局の方には長期にわたるご指導、有難うございました。



スーパービジョンの研修風景。講師の鋭い質問が飛びます。



8月1日 第1ブロック部会研修会



第1ブロックの今年度第1回研修会は、8月1日(木)午後から、新発田市生涯学習センターで開催されました。講師は本会の高橋研修委員長で「モチベーションアップ～働きたい職場作り～」について2時間にわたり熱弁を振るわれました。当日は運営委員を含めて81人の会員が参加しましたが、モチベーションアップは介護事業所に限らず、どんな事業所でも永遠の課題ですね。

今回の研修会を取り仕切った「はぐろの里」島田運営委員は、研修会を自分なりに組み立てることが出来て、これもモチベーションアップにつながると思っていました。次回も宜しくお願い致します。



↑ 佐藤部会長の開会挨拶です。高橋研修委員長の実物と30年前の対比から始まりました。
→ 講師は介護施設を実際に経営しておられますので、迫力満点。皆真剣な面持ちで聞き入っていました。

7月31日

第2ブロック部会研修会



事例発表が始まると、出席した皆様は真剣に聞き入っていました。

第2ブロックの研修会は、7月31日（水）ユニゾンプラザ4階大研修室で開催されました。今回は「みまもり家族制度とその支援内容」という演題で公益財団法人日本ライフ協会神戸事務所長 生駒 貴徳氏に依頼し、発表事例に対するコメントや講演をお願いしました。

今回は取り上げた課題の関係で、包括・居宅の介護支援専門員、特養の生活相談員の方々が多く、都合121人が参加しました。



中島部会長の開会挨拶です。



本日の講師、生駒 貴徳氏の講演が始まりました。

8月9日

第4ブロック部会研修会



山田先生は、研修参加者と同じ目線で穏やかな語り口でした。

第4ブロック部会研修会は、平成25年8月9日（金）に十日町市の道の駅「クロステン」で行われました。安全な介護実践研究センター代表の山田 宝物〜クレーム対応の実際〜についてグリップワークを交えた実践的な研修会を行いました。当日は運営委員を含めて83人の会員の皆様に参加してくださいました。苦情は無いに越したことはありませんが、逆に言えば宝の山。次回の研修会も宜しくお願い致します。



さあ始めますよ。総会司会の貝瀬施設長です。



受付が始まりました。出足は好調です。



講師を交え、開始前の作戦会議です。



清水部会長による開会の挨拶です。

●9月1日は「防災の日」です●

す ぐ 役 立 っ 防 災 関 連 の 便 利 備 蓄 品 特 集

大規模な地震等が発生した場合は、最低3日分、場合によっては7日分を、入所者、通所者そして職員が生活できるように備蓄しておくことが必要です。



日用品－ラップ（食器にラップをかけて使用）、使い捨て食器、ビニール袋、はさみ、ナイフ、マッチ、ライター、トイレトペーパーなどの他、下のような備えをしたいもの。その他にも、事業所の特性や災害種別によって、さらに効果的なものがあると思いますが、これらの品物を備蓄する場所も重要です。合わせて備蓄品の期日管理を怠りなく行ってください。



食料品等

飲料水、生活用水、非常用食品

- ・飲料水 一人一日3リットルを目安に、最低でも3日分の備蓄。
- ・生活用水 井戸水、河川等の自然利水による水源確保。
- ・非常用食品 調理不要の食料品（缶詰類）、ゼリータイプの高カロリー食品、アルファ米。



医薬品等

医薬品、衛生用品等

- ・医薬品 消毒薬、包帯、三角巾、滅菌ガーゼ、絆創膏、体温計。
- ・衛生用品 紙おむつ、サージカルマスク、タオル、ウェットティッシュ（入浴介助の代替品等）、プラスチックエプロン、ディスポ手袋、ポータブル便器、簡易トイレ（中越地震の教訓）



エネルギー源の確保

- 自家発電燃料、乾電池、ろうそく、懐中電灯、ポリタンク、軍手、プロパンガス調理器、携帯カイロ、石油ストーブ、灯油、毛布、防寒具、寝袋



情報機器

情報機器

- ラジオ、ワンセグテレビ、携帯電話、同充電器

地域とともに歩む

特別養護老人ホームたかつぼ 園長

田村浩子さん

●施設長リレーコラム●



「たかつぼ」は、村上市荒川地区の中心に位置し、日本海東北自動車道荒川インターチェンジや国道7号線、JR羽越本線と米坂線が接続する坂町駅があり、交通の便には大変恵まれた施設です。また県立坂町病院に隣接されており、特別養護老人ホーム、短期入所、デイサービスセンター、グループホーム、居宅介護支援事業所、在宅介護支援センター等が複合されている社会福祉法人村上岩船福祉会が経営する公設民営の施設です。

昨年、施設長として赴任いたしました。今年度の重点目標は、第三者評価の受審に向けた取り組みや「たかつぼ」が有する機能を積極的に地域へ提供することとし、「人を育てる」と「地域を支える」を何よりも大切なテーマとして取り組んでいるところです。特に「人を育てる」ことについては、現場の力を基軸とし、失敗から学ぶこと、介護の仕事の尊さなど、あらためて原点に帰əri感じ取る過程を重視しています。

「地域を支える」ことについては、在宅介護支援センターを窓口とした出張介護者教室を行っています。集落の公会堂へ出向く出張介護者教室は6回述べ130名の方の参加がありました。今年は新たに介護予防のための運動教室の充実や、地元の高齢者が解りやすいサービスガイドの作成に取り組む予定です。そのほかにも地域との交流は盛んです。今年のたかつぼ夏祭りのポスターは、地元の小学生が描いた絵を採用しました。あらかわ民謡流しには職員が下鍛冶屋地区として参加しています。ま

た、あらかわ花火大会では法人の理念である「一人ひとりの安心と笑顔」をキャッチコピーとして打ち上げしました。

「たかつぼ」は、今年20周年を迎えます。地元消防団の協力を得た防災訓練を初め、地元からたくさんのボランティアが来園され、温かい言葉をいただく度に「地域の方に生かされている」と感ずることがたくさんあります。交通の便に恵まれている「たかつぼ」が、地域を支え、地域に生かされ、人の行き交う施設として、地域とともに歩み、今まで以上に地域の方に喜んでいただける施設として発展できるよう精進したいと考えています。



特別擁護老人ホーム「たかつぼ」ってこんな施設です

国道7号線脇にあるアクセスのよい施設。協力病院である新潟県立坂町病院が隣接していて、緊密な連携が取れることも特徴だ。施設名「たかつぼ」は荒川地域で親しまれている「高坪山」から命名されたものとか。

事業所所在地 新潟県村上市下鍛冶屋572-7

運営事業者名 社会福祉法人村上岩船福祉会

事業所の種類 特別養護老人ホーム

開設日 1993年4月1日

連絡先等

0254-62-1455

<http://www.murakamiwafune.or.jp/>

スタッフのおすすめ!! ここがポイント。

POINT
1

平成5年に特別養護老人ホームとともに開所しましたが、手狭となり、平成22年に特殊浴室及び休養室、リハビリコーナーを増設しました。

POINT
2

特に休養室については、床面積が83.10㎡あり、広く開放感あふれる休養室となっています。10畳の小上がりと10台の電動ベッドを設置しています。

POINT
3

昼食後に休むためだけに用意されたスペースは、レク等活動の時間と区別され、気分転換にもなるようです。「落ち着く」「ゆっくり休める」「休んだあとは元気になる」等ご利用者の方には、大変好評です。



↑ 特別擁護老人ホームたかつぼの外観
← ひろびろゆったりとくつろげる、自慢の休養室。

広報誌リニューアルに寄せて

より親しみやすく、より多くの方にご理解を。

新潟県老人福祉施設協議会では、今年度より広報誌を今までの「にいがた老施設だより」から「にいがたろうしきょうNEWS」にリニューアルいたしました。

今まではどちらかというと固いイメージでしたが、より会員施設の皆さまに親しみやすく、また、ご利用されている利用者の皆さま、ご家族の皆さまにもご覧いただき、新潟県老人福祉施設協議会の活動をご理解いただきたいと考えています。



新潟県老人福祉施設協議会副会長

高橋 是司

私たちの事業目的は、「県内の

老人福祉施設の事業運営・経営の安定化、サービスの適正化を推進し、職員の研修活動を通じたサービスの向上と県民に対する高齢者福祉や介護に関する啓発活動によって、地域社会の高齢者福祉の向上に貢献する」ことです。

そのために、「科学的介護の実践と推進」に努めるとともに、いつ起こるかわからない「災害」の対策について会員施設が一層、連携をしていかなければなりません。

また、今後2015年に向け介護保険の介護報酬改正の議論が本格化していきます。

これからは、人材育成に必要な職員研修の情報、介護保険制度の改正や調査の統計などタイムリーな話題を「にいがたろうしきょうNEWS」で発信していきたいと思しますので、ご愛読をお願いします。



編集後記



1969年にアポロ11号が、月面に降り立ち、無事帰還しました。今から44年前のことです。その後スペースシャトルの時代になると、海上着水ではなく機体が飛行機のように基地へ戻るようになりました。

今回研究大会記念講演にお招きした山崎さんは、コロンビア、チャレンジャーに続くディスカバリーに乗

り組んだ日本人二人目の女性宇宙飛行士です。

最近では、小惑星イトカワの微粒子を「はやぶさ」が持ち帰りました。アメリカで今から36年前に打ち上げられたボイジャー1号が人工物体として初めて太陽系外に広がる星間空間に達しました。そして先日、世界初の惑星専用遠隔観測衛星イプシ

ロンの打ち上げが成功し、宇宙望遠鏡として惑星観測を行います。

子供の頃、金谷山の頂上に安物の天体望遠鏡を持ち込んで夜空を眺めながら、宇宙の広さを想像していたころを思い出します。

身近になった宇宙について山崎さんはどの様に表現されるか本当に楽しみです。(事務局 長谷川)